

衛星と軌道のお話

また3週間あいてしまい、気が付けば5月は1回しかつづやけませんでした。梅雨も近づいてきて、沖縄には台風も来ています。じつりと湿度の高い日が続くとやる気が出ない、という人もいるかもしれませんが、電気代と相談しつつエアコンを活用してくださいね。

さて、5/31に北朝鮮が「衛星ロケット」を発射したと発表しました。「アメリカの軍事活動を監視するため」の衛星だと言っていますが、これが本当になんであったのかはさておき、今回は衛星の「軌道」というものについて考えてみましょう。

人工衛星が地球の周りをまわる（公転する）とき、その通り道のことを衛星の軌道と言います。ロケットは、衛星を軌道にのせるための乗り物で、衛星をどんな軌道にのせるかは、その衛星で何をしたいかによって決まります。

たとえば、日本の天気予報のために雲の様子や大気の状態を観測する気象衛星は、日本の上空の雲を24時間みはることができる軌道にあると便利ですね。このような軌道にある衛星は地球から見ると空の1点に止まっているように見えるため、このような軌道を「静止軌道」と呼んでいます。

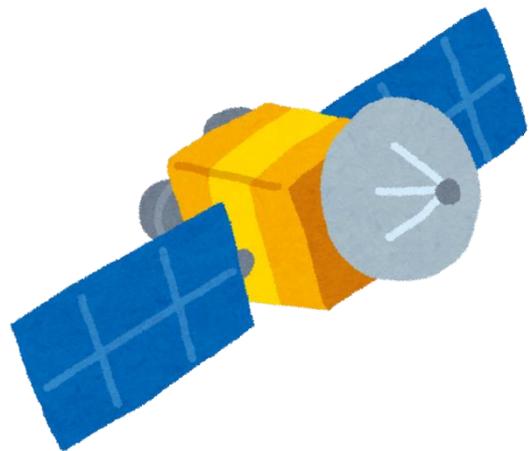


日本の気象衛星「ひまわり」から見た地球

他にも、地球の自転、公転にあわせて、昼と夜のさかい目を飛び続けるような軌道もあり、このような軌道は北極、南極の上空を通るため、「極軌道」と呼ばれます。

ロケットがほとんど真南に向かって打ち上げられていることなどから、今回の北朝鮮のロケットが目指した軌道は極軌道の一つで、地球上の同じ地点の真上を毎日同じ時刻に通ることで、地上の変化をとらえることを目的としていたのではないかと考えられます。

宇宙やロケットに興味がある人は、衛星の軌道についても調べてみると、面白いことがいろいろ分かると思います。日本やアメリカのロケットの打ち上げはだいたいインターネットで生中継されていますが、ただ見るだけでなく、どんな衛星をどういう軌道に入れたのか、という予備知識を持って見ると、一段上の楽しみ方ができますよ。



23/6/1 (そろそろ種子島でロケット成分を補給したい) あん Do